

**令和5年度「総務省の政策評価に関する有識者会議」と
「総務省行政事業レビュー外部有識者会合」の合同会合（第1回）**

議事概要

- 1 日時：令和5年8月21日（月）14時00分～15時25分
- 2 場所：総務省第1特別会議室（中央合同庁舎第2号館8階）
- 3 出席者：次のとおり（※は座長）。

（1）・総務省の政策評価に関する有識者会議構成員

北大路信郷 株式会社政策情報システム研究所 代表取締役所長※
重川 純子 埼玉大学教育学部教授
新藤 健太 日本社会事業大学講師
田淵 雪子 行政経営コンサルタント
西出 順郎 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授
山本 清 東京大学名誉教授

・総務省行政事業レビュー外部有識者会合構成員

北大路信郷 株式会社政策情報システム研究所 代表取締役所長※
有川 博 日本大学客員教授
西出 順郎 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授
横田 響子 株式会社コラボラボ代表取締役

（2）総務省

令和5年度評価対象政策の担当者等

4 議事概要

政策評価・行政事業レビューの見直しの全体像について行政評価局から、総務省における政策評価の見直しについて政策評価広報課から、総務省における行政事業レビューの取組について会計課から説明後、評価書案、行政事業レビューシート案について、有識者から御意見を伺った。主な意見は以下のとおり。

【政策2 行政評価等による行政制度・運営の改善】

- 政策評価、行政事業レビューの全体の見直しに関して、国民が行政に対する理解を深め、行政に対する信頼を高めるためには、本見直しで、かえって評価書そのものが複雑になっていないかという懸念がある。政策評価・行政事業レビューを用いて国民への説明責任を果たすことに対しては、どのような配慮が見直しによって行われたのか
- レビューシートの様式を見直した以上は、そのシートの活用の仕方について、より作成部局が理解できるように制度当局が指導していくべき。また、制度当局に

においてノウハウを蓄積し、各府省に対して指導・助言することで、改善されれば、事業目的の設定根拠などが明確になり、国民にとっても政策・施策との整合性が取れているか、事業内容、アクティビティと事業目的との整合性が取れているか検証可能となる。

- 見直し後の評価書はポンチ絵を中心とした資料で分かりやすいが、読み手の理解度は記載内容への関心度等に左右されるだろう。試行段階のため、様々な取組を行ってほしいが、やはり説明責任を果たすことは非常に重要である。デジタル社会なのだから、音声を用いて説明をすることも、取り入れて良いのではないか。より国民へ政策評価をわかりやすく伝えるためには、どうすれば良いのかというのを、今後においてもクリエイティブに考えていただきたい。
- 評価であるならば、5段階評価をやめても、事実に基づいてどう価値判断したのかということに記載することが重要ではないか。
- 全ての事業に対して、その有効性を問うことは困難ではないか。有効性が認められなくとも、行う必要のある事業があり、これらに対しては必要性や有用性の視点からも問うことが重要となり、全ての施策に対して有効性を問う必要はないのではないか。
- エビデンスを意思決定に活用することは、非常に重要であるが、意思決定の際は、エビデンスをどう活用するのかといったリテラシーも必要である。
- レビューシートについて、具体的に中期・長期アウトカムも含めて目標設定ができていますが、どのように対処したのか。
- 行政評価局はレビューシートと政策評価書が1対1の関係性であったが、他は、レビューシートと政策評価書がどれだけひもづいて、きちんと連動しているかどうかを誰がチェックしていくのか。
- 評価を行う上で生じるコストをどう捉えるべきかという議論は、どのように整理されているのか。
- アクティビティに着目し、きちんと測定しなければ、予算との連携は困難。短期的にも定量的に捉まえて評価を活用し、予算要求と連動することができれば部局のモチベーションにもつながるのではないか。

- 評価書の自由度を高めるあまり、国民の皆さんが活用しづらくなっているのではないか。今後検討していく際には、国民のみなさんに理解いただくために、本当に分かりやすく出来ているのかという視点を忘れずに対応いただきたい。
 - 政策評価の政策目的から展開するロジックモデルと、行政事業レビューのアクティビティを積み上げたロジックモデル、それらをうまく連動する形が示されると良いが、今後、行政事業レビューのロジックモデルをどう活用してくのか。
 - 行政事業レビューは、税金の使い道を明らかにすることが一つの大きな役割である。これについては、これまで以上にしっかりと対応をしていただきたい。そのためにも、行政事業レビューの中で、税金の使途、資金の流れに関しては適切に記載・分析していただきたい。
-
- 全体像は最初にあるものの、以前の評価書の様式であれば一つ一つの指標について、どの様な評価がされていて、今後どういう課題が見込まれるか見てとれた。このような内容が記されている評価書もあるが、今回の評価書では少し分かりづらくなったという印象を受けるため、他の政策の評価書に関しても、わかりやすさが形になるとよい。
 - 評価書の記述の精粗について、もう少し何か全体的な仕組みとして設定するのはいかがか。また目標設定では目標値の妥当性に係る説明や記載があるとよい。

(文責：総務省大臣官房会計課・政策評価広報課)